

平成25年度第2回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の概要

1 日時

平成25年10月29日（水）16:00～18:00

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「特にお聞きしたい論点」（資料1）、「最近の野菜の需給・価格動向について」（資料2）、「野菜の消費関連資料」（資料3）の説明の後、秋冬野菜の需要・消費動向の見通しについて、意見交換。その概要を小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、11月6日開催の平成25年度第2回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成25年産秋冬野菜の需要・消費動向の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

（1）野菜全体の目下の動向

① 景気、天候等の要因による消費動向

- ・ 景気に対する消費行動の顕著な動きは、特に見られない。
- ・ 今夏の高湿・少雨・台風等の影響により、野菜全般的に高値で推移したため、カット売り等を推進し販売点数を維持することにより、野菜の販売額は増加に繋がった。
- ・ 9月以降は気象災害や端境期等の影響により、業務用野菜の場合、特に、品目にかかわらず品薄、高値で品揃えに苦慮した。

② 震災や原発事故の影響による消費動向

- ・ 消費者に東北産等を懸念する声や西日本産の取り扱いの要望が一部ではあるため、引き続き、西日本産のものと併売を実施していく。
- ・ 一部の児童福祉施設等において、依然、福島産を敬遠する動きがある。
- ・ マルシェなどの野外販売イベントでは、原発事故の影響は少ない。

③ ①や②を踏まえた野菜全体の販売状況

- ・ 高騰している野菜については、ロットの少量目化とカット売り等による販売に取り組んだ。
- ・ だいこんについては、相場が高くなっている中、2分の1カットの販売が中心であったが、3分の1及び4分の1カットの販売を強化している。

④ 消費拡大への取組状況及び今後の予定

- ・ トマトの加熱調理を促進するため、おすすめレシピ等の情報発信や売り場の拡大、販売促進活動に取り組んでいる。
- ・ ミニトマトやきのこの等の各品種を取り揃え、バイキング形式による販売に取り組んでいる。
- ・ クックパッドに掲載されている調理方法を追加したポップを作成する。

（2）秋冬野菜主要6品目（冬キャベツ、秋冬だいこん、たまねぎ、冬にんじん、秋冬はくさい、冬レタス）の今後（11～3月）の見通し

① 全体（主要6品目）の傾向

- ・ 産地の状況も一様ではないが、今冬が寒いとの寒候期予報や今般の台風等の影響などから、今後、年明けなどの需給が逼迫しないか心配される。

- ② 冬キャベツ
 - ・ キャベツは、台風２６号の影響で、愛知県産、静岡県産等の播種が遅れたため、１～２月の出荷分に影響がでる可能性がある。
- ③ 秋冬だいこん
 - ・ だいこんは、産地が青森県、北海道から関東地域に移るが、一部の産地で猛暑の影響による播種の遅れや台風の影響が心配される。
- ④ たまねぎ
 - ・ たまねぎは、北海道産が小玉傾向のため、出荷量は減少する見込み。現在も大きさの違いによる価格差は、平年に比べ大きく、今後もこの傾向は続く可能性がある。
 - ・ 業務用においては、加工に適した大玉を米国から輸入する動きがある。
- ⑤ 冬にんじん
 - ・ にんじんは、台風２６号の影響により千葉県産で一部、灌水被害を受けたため、出荷量は減少するものの、埼玉県産は平年並みに出荷される見込み。
- ⑥ 秋冬はくさい
 - ・ はくさいは、猛暑の影響から播種の遅れがあったため、茨城県産の出荷が一部遅れる可能性がある。
- ⑦ 冬レタス
 - ・ レタスは、台風２６号等の影響で、茨城県産は品質の低下が見られるため、今後の兵庫県産、静岡県産に期待したい。なお、業務用においては、例年どおり台湾から輸入する動きがある。

(3) その他

- ① 冬場の消費を左右する要因、注目している要因（鍋物・おでん・漬物の動向等）
 - ・ おでん関連商材と組み合わせた販売を計画している。
 - ・ はくさいの漬物の需要期となるため、小売店では積極的に販売していく。
 - ・ 今年の冬場の消費には関係はないが、来年の消費税増税を注視しており、売価設定、販売ロット等について現在精査している。
 - ・ 冬場のキャベツが不作になると、輸入等による手当も出来にくいため、国内産地（九州・四国）を育成することが重要である。
- ② 主要６品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向
 - ・ このまま相場が高い状態が続くことが考えられるので、年末に向けて海外産地からの仕入ルートを開拓している。
 - ・ 年間を通じて売れる品目であるトマト、きゅうり及びレタスについては、高品質のものや付加価値（きゅうりの花付き、レタスの水耕栽培等）の高いものを販売していく。
 - ・ ブロッコリーの脇芽は、包丁で切る必要がなくて手間がかからない。袋に詰め放題で販売すると非常によく売れる。
- ③ 冷凍野菜やカット野菜の動向
 - ・ カット野菜については引き続き、前年比２桁の伸びを示しており、今後、炒め物、鍋物のカット野菜の品揃えを強化していく。
 - ・ カット野菜については、夏野菜から根菜中心の温野菜セットの販売となり、価格帯は１パック５００円程度を想定している。
 - ・ カット野菜の需要が伸びているため、生産者団体と提携して開発したミックス野菜等のＰＢ商品の販売を予定している。
 - ・ 業務向けのカット野菜の比率は高くなっており、現在、キャベツがレタスに代わり取扱数量が一番多くなっている。
 - ・ 海外産の冷凍野菜については、消費者から安全性について懸念する声もある。
 - ・ 冷凍野菜は、輸入品が多い中で、品質及び安全性の高い冷凍野菜を製造する国内の冷

凍野菜産業を育成することが重要である。

④ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- ・ 相場が高騰している野菜については、国産の代替えとして価格を抑えた輸入野菜の引きが強まっている。
- ・ 米国産たまねぎの生育は悪くない模様であるが、価格は前年に比べ高い価格で取引されている。
- ・ 中国産のたまねぎは、人件費等の高騰から販売価格が引き続き高くなることが予想されるので、米国産の取扱が多くなると考えられる。
- ・ 円安は、ドル建てでの取引が一般的となるたまねぎ、レタスにおいて影響が大きいと考えられる。